2022年09月 **TG/46/7** 2008-04-09 に準拠

タマネギ種

Onion

(Allium cepa L.)

タマネギ種審査基準

I. 審査基準の対象(Subject of these Guidelines)

この審査基準は、ヒガンバナ科(Amaryllidaceae)ネギ属(*Allium* L.)のタマネギ種(*A. cepa* L. タマネギグループ(Cepa Group)及びシャロットグループ(Aggregatum Group))、グレーシャロット種(*A. oschaninii* O. Fedtsch.)及びその交雑種の全ての品種に適用する。

Ⅱ. 提出種苗(Material Required)

i)種苗の形態 種子繁殖性品種 種子

栄養繁殖性品種 小球根

ii) 提出時期 審査当局が指定する時期

iii) 数量 種子繁殖の場合 1,000 粒

栄養繁殖の場合 300 球

種子は、発芽率、純潔率、水分含量等保存に適したものであること。

- iv)提出する種苗は、重要な病害虫に汚染されていない十分に健全なものであること。
- v) 提出種苗は審査当局が指示した場合を除き薬剤、その他の処理をしていないものであること。もし、処理が行われている場合はその処理の詳細について記載すること。

Ⅲ. 試験の実施(Conduct of Tests)

- i) 栽培条件 特性の確認が十分にできる正常な生育が可能な条件下で実施する。
- ii)最低供試個体数

種子繁殖性品種 タマネギ品種 特性調査時に60個体を下回らないこと。 シャロット品種 特性調査時に60個体を下回らないこと。

栄養繁殖性品種 特性調査時に100個体を下回らないこと

2 反復又はそれ以上に分割して栽培する。

- iii) 栽培期間 2 生育周期
- iv)調查方法

調査個体数 特に指示がない限り、種子繁殖性品種にあっては、植物体 20 個体又 は各個体から採取した部分 20 個について、栄養繁殖性品種の場合は、 植物体 20 個体又は各個体から採取した部分 20 個とする。

均一性は供試した全ての個体で判定する。

調査時期等 特に指示がない限り、葉に関する形質は、収穫期前又は抽だい開始 前に行う。球に関する形質は、収穫時及び乾燥後、特性表の調査方法 の欄に記載されている時期に行う。

v)特別な試験 特別な条件下でのみ発現する特性があり、出願者が試験方法等を添 えて申告し、審査当局がこれに同意した場合は実施することがある。

IV. 判定基準 (Standards for Decisions)

判定は、品種登録出願審査等要領の区別性、均一性及び安定性(DUS)審査のための一般基準に基づくものとする。

なお、均一性の判定について、栄養繁殖性品種においては、母集団標準 1%、受容確

率 95% を適用し、UPOV の TGP8 文書の 8.1.10 節の図表 5 により判定する。供試個体数 が 100 の場合、許容される異型個体数は 3 である。

他家受粉品種及び交雑品種においては、上記一般基準の第4の2(2)及び(3)を それぞれ適用する。

V. グループ分けに使用する形質 (Grouping of Varieties)

- i) 1 葉しょう当たりの葉数 (形質 1)
- ii) 葉の緑色の濃淡(形質 4)
- iii) 種子繁殖性品種の分球性 (形質 12)
- iv) 栄養繁殖性品種の分球の強弱(種子から得られたセット栽培を含む。) (形質 13)
- v) 球の大きさ(たまねぎ品種に限る。) (形質 15)
- vi) 小球から栽培する小球の大きさ(シャロット品種に限る。) (形質 16)
- vii) 球の縦断面の形 (形質 25)
- viii) 球の外皮の色(形質 30)
- ix) 球の外皮の二次色(形質 32)
- x) 球のkg 当たりの成長点の数(形質34)
- xi) 秋播き栽培での収穫期(たまねぎ品種に限る。) (形質 42)
- xii) 春播き栽培での収穫期(たまねぎ品種に限る。) (形質 43)
- x iii) 収穫期(シャロット品種に限る。) (形質 44)
- x iv) 雄性不稔性(形質 46)

VI. 特性表で使用する記号の説明 (Legend)

G: グループ分けに使用する形質

(*): 品種記載の国際調和のための調査形質

QL: 質的形質 **QN**: 量的形質

PQ: 擬似の質的形質

(+): Ⅷに特性表の説明図等を示す

MG:植物体あるいは植物体の一部を集団として測定記録

MS:植物体あるいは植物体の一部の個々の測定記録

VG: 植物体あるいは植物体の一部を集団として観察記録

VS:植物体あるいは植物体の一部の個々の観察記録

網掛け(特性表のピンク色の部分): 区別性審査の計画において特に有用な形質

状熊区分

質的形質及び擬似の質的形質の場合、全ての状態が特性表に記載してある。しかし、 5 階級以上の状態がある量的形質の場合、省略した状態が用いられることがある。例 えば、9 階級の状態による量的形質の場合、審査基準の状態は、以下のとおりに略さ

れることがある。

	態 ate)	階級 (Note)				
(日本語)	(English)	(Note)				
小	small	3				
中	medium	5				
大	大 large					

しかし、以下の9階級の状態を品種の記述として使用できるが、その場合には適切に使用するよう留意する。

	状態	階級
	(State)	(Note)
(日本語)	(English)	(Note)
極小	very small	1
かなり小	very small to small	2
小	small	3
やや小	small to medium	4
中	medium	5
やや大	medium to large	6
大	large	7
かなり大	large to very large	8
極大	very large	9

Ⅶ. 特性表 (Table of Characteristics)

形質番号	U P O	記	形 (Charac	質 cteristics)	定義	調査	階	· ()	t 態 State)	標準品種	備考
番号	V No.	号	(日本語)	(English)	75 32	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	5113
1	1	QN	1葉しょう当た	Plant: number of	1葉しょう当たりの	観察/	3	少	few		
		(*)	りの葉数	leaves per	葉の数	測定	5	中	medium	淡路中甲高	
		G		pseudostem		VG/	7	多	many		
						MS					
2	2	QN	草姿	Foliage: attitude	葉しょう中央部から	観察	1	<u> </u>	erect		
		(*)			の葉の出葉角度	VG	2	立~半立	erect to semi-erect		
							3	半立	semi-erect	今井早生	
							4	半立~開張	semi-erect to		
									horizontal		
							5	開張	horizontal		
3	3	QN	葉のろう質の強	Foliage: waxiness	葉のろう質の程度	観察	1	無又は極弱	absent or very weak		
		(*)	弱			VG	3	弱	weak	アーリーグラノ	
							5	中	medium	淡路中甲高	
							7	強	strong	大阪丸	
							9	極強	very strong		
4	4	QN	葉の緑色の濃淡	Foliage: intensity of	葉の緑色の濃淡	観察	3	淡	light	アーリーグラノ	
		(*)		green color		VG	5	中	medium	淡路中甲高	
		G					7	濃	dark	愛知白	
5	5	QN	葉の折れの強弱	Foliage: cranking	葉の折れの強弱	観察	1	無又は極弱	absent or very weak		
		(+)				VG	3	弱	weak		
						100	5	中	medium		
							7	強	strong		
							9	極強	very strong		

形質番号	U P O	記	形 (Charac	質 cteristics)	定義	調査	階		t 態 State)	標準品種	備考
番号	V No.	号	(日本語)	(English)	7= 32	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	VII3 3
6	6.1	QN	葉の長さ(たまね	Onion varieties only:	最長葉の長さ	測定	3	短	short	貝塚早生	
			ぎ品種に限る。)	Leaf: length		cm	5	中	medium	淡路中甲高	
						MS	7	長	long		
7	6.2	QN	葉の長さ(シャロ	Shallot varieties	最長葉の長さ	測定	3	短	short		
			ット品種に限	only: Leaf: length		cm	5	中	medium		
			る。)			MS	7	長	long		
8	7.1	QN	葉の太さ(たまね	Onion varieties only:	最長葉の葉の太さ	観察/	3	細	small	アーリーグラノ	
		(*)	ぎ品種に限る。)	Leaf: diameter		測定	5	中	medium	淡路中甲高	
						mm	7	太	large	今井早生	
						VG/					
						MS					
9	7.2	QN	葉の太さ(シャロ	Shallot varieties	最長葉の葉の太さ	観察/	3	細	small		
		(*)	ット品種に限	only: Leaf: diameter		測定	5	中	medium		
			る。)			mm	7	太	large		
						VG/					
						MS					
10	8	QN	葉しょう部の長	Onion varieties only:	葉しょう部の長さ	測定	3	短	short	貝塚早生	
		(+)	さ(たまねぎ品種	Pseudostem: length		cm	5	中	medium	淡路中甲高	
			に限る。)	(up to highest green		MS	7	長	long	山口丸	
				leaf)		100					
11	9	QN	葉しょう部の太	Onion varieties only:	葉しょうの中央部の	測定	3	細	small	山口丸	
		(+)	さ(たまねぎ品種	Pseudostem:	太さ	mm	5	中	medium	淡路中甲高	
			に限る。)	diameter (at		MS	7	太	large		
				mid-point of length)		100					

形質番号	U P O V	記		質 cteristics)	定義	調査	階	· (2)	態 State)	標準品種 (Ex.Var.)	備考
号	No.	号	(日本語)	(English)		力伝	級	(日本語)	(English)	(Ex. var.)	
12	10	QN	種子繁殖性品種	Seed-propagated	種子から栽培した時	観察	1	無又は極弱	absent or very weak		
		(*)	の分球性	varieties only: Bulb:	の乾燥した外皮を持	VG	3	弱	weak		
		(+)		Tendency to split	つ小球への分球程度	135	5	中	medium		
		G		into bulblets (with			7	強	strong		
				dry skin around each			9	極強	very strong		
				bulblet)							
13	11	QN	栄養繁殖性品種	<u>Vegetatively</u>	球又は小球から栽培	観察	1	無又は極弱	absent or very weak		
		(*)	の分球の強弱(種	propagated varieties	した時の乾燥した外	VG	3	弱	weak		
		(+)	子から得られた	only (including	皮を持つ小球への分	135	5	中	medium		
		G	セット栽培を含	re-planted bulbs	球程度		7	強	strong		
			む。)	harvested from			9	極強	very strong		
				seed-propagated							
				varieties): Bulb:							
				degree of splitting							
				into bulblets (with							
				dry skin around each							
				bulblet)							
14		QN	分球の強弱(シャ	Shallot varieties	小球への分球程度	観察	3	弱	weak		
		(*)	ロット品種に限	only: Bulb: degree of		VG	5	中	medium		
			る。)	splitting into bulblets		Asses a E	7	強	strong		
15	12.1	QN	球の大きさ(たま	Onion varieties only:	球の大きさ	観察/	3	小	small	山口丸	
		(*)	ねぎ品種に限	Bulb: size		測定	5	中	medium	淡路中甲高	
		G	る。)			g	7	大	large	今井早生、札幌	
						VG/				黄	
						MS					

形質番号	U P O V	記	形 (Charac	質 eteristics)	定義	調査	階	\tag{\psi}	能 State)	標準品種	備考
号	No.	号	(日本語)	(English)		方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	
16	12.2	QN	小球から栽培す	Shallot varieties	小球の大きさ(分球	観察/	3	小	small		
		(*)	る小球の大きさ	only: (grown from	した最大の小球)	測定	5	中	medium		
		G	(シャロット品	bulblets) Bulblet:		g	7	大	large		
			種に限る。)	size		VG/					
						MS					
17	13.1	QN	球の高さ(たまね	Onion varieties only:	球の高さ	測定	3	低	short	貝塚早生	
		(*)	ぎ品種に限る。)	Bulb: height		cm	5	中	medium	淡路中甲高	
						MS	7	高	tall	大阪丸	
18	13.2	QN	小球から栽培す	Shallot varieties	小球の高さ(分球し	測定	3	低	short		
		(*)	る小球の高さ(シ	only: (grown from	た最大の小球)	mm	5	中	medium		
			ヤロット品種に	bulblets) Bulblet:		MS	7	高	tall		
			限る。)	height							
19	14.1	QN	球の直径(たまね	Onion varieties only:	球の最大直径	測定	3	小	small	山口丸	
		(*)	ぎ品種に限る。)	Bulb: diameter		cm	5	中	medium	淡路中甲高	
						MS	7	大	large	今井早生	
20	14.2	QN	小球から栽培す	Shallot varieties	小球の最大直径(分	測定	3	小	small		
		(*)	る小球の直径(シ	only: (grown from	球した最大の小球)	mm	5	中	medium		
			ヤロット品種に	<u>bulblets</u>)		MS	7	大	large		
			限る。)	Bulblet: diameter							
21	15.1	QN	球の高さ/直径	Onion varieties only:	球の高さ/球の最大	測定	3	小	small		
		(*)	(たまねぎ品種	Bulb: ratio	直径の比	比	5	中	medium		
			に限る。)	height/diameter		MS	7	大	large		

形質番号	U P O	記	形 (Charac	質 cteristics)	定義	調査	階	为 (:	能 State)	標準品種	備考
番号	V No.	号	(日本語)	(English)	,	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	VII. 3
22	15.2	QN	小球から栽培す	Shallot varieties	小球の高さ/小球の	測定	3	小	small		
		(*)	る小球の高さ/	only: (grown from	最大直径の比	比	5	中	medium		
			直径(シャロット	<u>bulblets)</u> Bulblet:		MS	7	大	large		
			品種に限る。)	ratio height/diameter							
23	16	QN	球の最大直径の	Bulb/Bulblet:	球又は小球の最大直	観察	1	上部	towards stem end		
		(*)	位置	position of	径の位置	VG	2	中央部	at middle		
		(+)		maximum diameter			3	下部	towards root end		
24	17	QN	球の首の太さ	Bulb/Bulblet:	球又は小球の首の太	観察/	3	細	narrow	山口丸	
		(+)		width of neck	さ	測定	5	中	medium	淡路中甲高	
						mm	7	太	broad		
						VG/					
						MS					
						150					
25	18	PQ	球の縦断面の形	Bulb/Bulblet: shape	球又は小球の縦断面	観察	1	楕円形	elliptic		
		(*)		(in longitudinal	の形	VG	2	卵形	medium ovate		
		(+)		section)		150	3	広楕円形	broad elliptic		
		G					4	円形	circular	大阪丸、札幌黄	
							5	広卵形	broad ovate	淡路中甲高	
							6	広倒卵形	broad obovate	仙台黄	
							7	ひし形	rhombic		
							8	やや扁平形	transverse medium	今井早生	
									elliptic		
							9	扁平形	transverse narrow	貝塚早生	
									elliptic		

形質番号	U P O	記	形 (Charac	質 cteristics)	定義	調査	階	岁	た態 State)	標準品種	備考
番号	V No.	号	(日本語)	(English)	, , , , ,	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	
26	19	QN	球の縦断面上部	Onion varieties only:	球縦断面上部の形	観察	1	へこむ	depressed		
		(*)	の形(たまねぎ品	Bulb: shape of stem		VG	2	平	flat		
		(+)	種に限る。)	end (in longitudinal			3	少し盛上がる	slightly raised		
				section)			4	円	rounded		
							5	ややなで肩	slightly sloping		
							6	なで肩	strongly sloping		
27	20	QN	球の縦断面下部	Bulb/Bulblet: shape	球縦断面基部の形	観察	1	へこむ	depressed	愛知白	
		(*)	の形	of root end (in		VG	2	平	flat	淡路中甲高	
		(+)		longitudinal section)			3	円	round		
							4	やや先細	weakly tapered		
							5	先細	strongly tapered		
28	21	QN	球の外皮の付着	Bulb/Bulblet:	乾燥した外皮の付着	観察	3	弱	weak		
			の強弱	adherence of dry	の程度	VG	5	中	medium		
				skin after harvest			7	強	strong		
29	22	QN	球の外皮の厚さ	Bulb/Bulblet:	乾燥した外皮の厚さ	観察	3	薄	thin		
				thickness of dry skin		VG	5	中	medium	淡路中甲高	
						150	7	厚	thick	大阪丸、札幌黄	
30	23	PQ	球の外皮の色	Bulb/Bulblet: base	乾燥した外皮の基本	観察	1	白	white	愛知白	
		(*)		color of dry skin	的な色	VG	2	灰	gray		
		G					3	緑	green		
							4	黄	yellow	クリームゴールド	
							5	褐	brown	札幌黄	
							6	杪	pink		
							7	赤	red		

形質番号	U P O	記	形 (Chara	質 cteristics)	定義	調査	階	》 ()	t 態 State)	標準品種	備考
番号	V No.	号	(日本語)	(English)		方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	
31	24	QN	球の外皮の色の	Excluding varieties	乾燥した外皮の主な	観察	3	淡	light		
		(*)	濃淡	with white dry skin:	色の濃淡(球の外皮	VG	5	中	medium		
				Bulb/Bulblet:	の色が白の品種を除		7	濃	dark		
				intensity of basic	< ∘)						
				color of dry skin							
32	25	PQ	球の外皮の二次	Bilb/Bulblet: hue of	乾燥した外皮の二次	観察	1	無	absent		
		(*)	色	color of dry skin (in	色	VG	2	灰色系	grayish		
		G		addition to base		150	3	緑色系	greenish		
				color)			4	黄色系	yellowish		
							5	褐色系	brownish		
							6	桃色系	pinkish		
							7	赤色系	reddish		
							8	紫色系	purplish		
33	26	PQ	球のりん片表皮	Bulb/Bulblet:	りん片表皮の色	観察	1	無	absent		
		(*)	の色	coloration of		VG	2	緑系	greenish		
				epidermis of fleshy			3	赤系	reddish		
				scales							
34	27	QN	球のキログラム	Bulb/Bulblet:	球又は小球 1kg 当た	測定	3	少	low		
		(*)	当たりの成長点	number of growing	りの成長点の数	MS	5	中	medium		
		(+)	の数	point per kg		150	7	多	high		
		G									
35		QN	りん片のしまり	Bulb/Bulblet:	りん片の着生の程度	観察	3	ゆるい	loose		
				compactness of		VG	5	中	medium		
				cloves			7	しまる	compact		

形質番号	U P O	記		質 cteristics)	定義	調査	階	\ ()	t 態 State)	標準品種	備考
番号	V No.	号	(日本語)	(English)	7_ 77	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	
36		QN	球の肉質	Bulb/Bulblet: density	収穫した球の肉質の	観察	3	粗	thin	愛知白	
				of flesh sabstance	粗密	VG	5	中	medium	淡路中甲高	
							7	密	thickness	大阪丸、札幌黄	
37	28	QN	球の乾物率	Bulb/Bulblet: dry	完全に乾燥した時の	測定	3	低	low	愛知白	
		(*)		matter content	乾物率	%	5	中	medium	今井早生	
		(+)				MG	7	高	high	平安球型黄	
						150					
38	29	QN	春播き栽培での	Onion varieties only:	春播き栽培した時の	観察	1	無又は極弱	absent or very weak		
			抽だい性(たまね	Tendency to bolting	抽だいの程度	VG	3	弱	weak		
			ぎ品種に限る。)	in <u>spring</u> sown trials		40-	5	中	medium		
						100	7	強	strong	札幌黄	
							9	極強	very strong		
39	30	QN	春播き栽培での	Onion varieties only:	春播き栽培した時の	測定	3	早	early		
			抽だい開始期(た	Time of beginning of	抽だいを開始する時	月日	5	中	medium		
			まねぎ品種に限	bolting in spring	期	MG	7	晚	late		
			る。)	sown trials							
40	31	QN	秋播き栽培での	Onion varieties only:	秋播き栽培した時の	観察	1	無又は極弱	absent or very weak		
			抽だい性(たまね	Tendency to bolting	抽だいの程度	VG	3	弱	weak		
			ぎ品種に限る。)	in <u>autumn</u> sown		40-	5	中	medium	淡路中甲高	
				trials		100	7	強	strong		
							9	極強	very strong		
41	32	QN	秋播き栽培での	Onion varieties only:	秋播き栽培した時の	測定	3	早	early		
			抽だい開始期(た	Time of beginning of	抽だいを開始する時	月日	5	中	medium	淡路中甲高	
			まねぎ品種に限	bolting in autumn	期	MG	7	晚	late		
			る。)	sown trials							

形質番号	U P O	記	形 (Charac	質 cteristics)	定義	調査	階	状	能 State)	標準品種	備考
番号	V No.	号	(日本語)	(English)	7- 12	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	
42	33	QN (*) G	秋播き栽培での 収穫期(たまねぎ 品種に限る。)	Onion varieties only: Time of harvest maturity for autumn sown trials (foliage	秋播き栽培した時の 供試株数の 80%以上 が倒伏した時期	測定 月日 MG 105	3 5 7	中晚	early medium late	今井早生	
				fall-over in 80% of plants)							
43	34.1	QN (*) G	春播き栽培での 収穫期(たまねぎ 品種に限る。)	Onion varieties only: Time of harvest maturity for spring sown trials (foliage fall-over in 80% of plants)	春播き栽培した時の 供試株数の80%以上 が倒伏した時期	測定 月日 MG 105	3 5 7	中晚	early medium late		
44	34.2	QN (*) G	収穫期 (シャロット品種に限る。)	Shallot varieties only: Time of harvest maturity (foliage fall-over in 80% of plants)	シャロット品種の供 試株数の80%以上が 倒伏した時期	測定 月日 MG	3 5 7	中晚	early medium late		
45	35	QN (+)	貯蔵中のほう芽 期	Time of sprouting during storage	貯蔵中のほう芽の早 晩	測定 月日 MG 160	3 5 7	早 中 晚	early medium late	愛知白 淡路中甲高 山口丸、札幌黄	選択 形質

形質	U P O	記	形 (Charac	質 cteristics)	定義	調査	階	(<u>;</u> 分	t 能 State)	標準品種	備考
番号	No.	号	(日本語)	(English)		方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	
46	36	QN (*) (+)	雄性不稔性	Male sterility	収穫した球を翌年に 栽培した時の雄性不 稔個体の出現程度	観察 VG 270	1 2 3	無又は極弱 弱 強	absent or very weak weak strong		
		G									

Ⅷ. 特性表の説明 (Explanations on the Table of Characteristics)

1 タマネギとシャロットのグルーピング

タマネギとシャロットのグループ分けは、形質 34「球の kg 当たりの成長点の数」と組み合わせて、形質 12「種子繁殖性品種の分球性」及び 13「栄養繁殖性品種の分球の強弱 (種子から得られたセット栽培を含む。) に基づいて行う。

形質 12 種子繁殖性品種の分球性

Char.12 <u>Seed-propagated varieties only</u>:Bulb: Tendency to split into bulblets (with dry skin around each bulblet)

タマネギ又はエシャリオンとして適用して種子から栽培した品種の場合、形質 12 の階級 1, 2, 3 はタマネギ品種とし、階級 7, 8, 9 はシャロット品種とし、階級 4, 5, 6 は次年の再植え付けの結果(形質 13)により分類する。

シャロットとして適用して種子から栽培した品種の場合、形質 12 の階級 7,8,9 はシャロット品種とし、階級 1,2,3,4,5,6 は次年の再植え付けの結果(形質 13)により分類する。

Seed-propagated varieties applied for as onion/echalion with notes 1 to 3 for characteristic 12 are grouped as onion/echalion and varieties with notes 7 to 9 are grouped as shallot. Varieties with notes 4, 5 or 6 need to be considered according to characteristic 13, after replanting in a second growing cycle.

Varieties applied for as seed shallots with notes 1 to 6 for characteristic 10, need to be considered according to characteristic 11, after replanting in a second growing cycle. Varieties with notes 7 to 9 are grouped as shallot.

形質 13 栄養繁殖性品種の分球の強弱(種子から得られたセット栽培を含む。)

Char.13 <u>Vegetatively propagated varieties only (including re-planted bulbs harvested from seed-propagated varieties)</u>: Bulb: degree of splitting into bulblets (with dry skin around each bulblet)

球又は小球から栽培した品種の場合、形質 13 の階級 1, 2, 3 はタマネギ品種とし、階級 7, 8, 9 はシャロット品種とし、階級 4, 5, 6 は形質 33 「球の kg 当たりの成長点の数」により分類する。

Varieties with notes 1 to 3 for characteristic 13 are grouped as onion/echalion and varieties with notes 7 to 9 are grouped as shallots. Varieties with notes 4, 5 or 6 for characteristic 13 need to be considered according to characteristic 34 (number of growing points) after vegetative multiplication (in the second growing cycle).

形質 34 球の kg 当たりの成長点の数

Char.34 Bulb/Bulblet: number of growing point per kg

形質 34 の階級 1, 2, 3 はタマネギ品種とし、階級 5, 6, 7, 8, 9 はシャロット品種とし、階級 4 はタマネギとシャロットの両方の品種に分類する。

Varieties with notes 1 to 3 for characteristic 34 are grouped as onion/echalion and varieties with notes 5 to 9 are grouped as shallot. Varieties with state 4 for characteristic 34 should be compared with varieties in both the onion and shallot group. [To determine the group, the variety needs to be observed in at least two further independent growing cycles to determine if the description is nearer

to 3 or 5.] This is illustrated as follows:

形質 12 種子繁殖性品種の分球性

シャロットとして適

用した品種

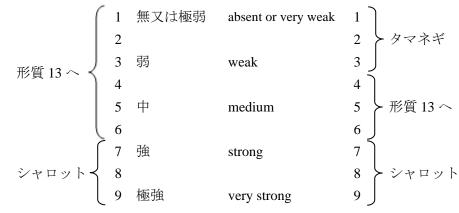
Varieties applied for as:

shallot

タマネギ又はエシャ リオンとして適用し た品種

Varieties applied for as:

onion/echalion



形質 13 栄養繁殖性品種の分球の強弱

1	無又は極弱	absent or very weak	1
2			2 タマネギ
3	弱	weak	3
4			4
5	中	medium	5 ト 形質 34 へ
6			6
7	強	strong	7
8			8 > シャロット
9	極強	very strong	9

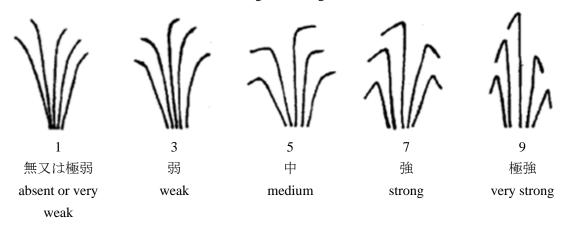
形質 34 球の kg 当たりの成長点の数

•	. 0		
1	極少	very low	1
2			2 タマネギ
3	少	low	3
4			4 両グループ
5	中	medium	5
6			6
7	多	high	7 〉シャロット
8			8
9	極多	very high	9)

Varieties with state 4 should be compared with varieties in both the onion and shallot groups

2 個々の形質の説明

形質 5 葉の折れの強弱 Char. 5 Foliage: cranking



形質10 葉しょう部の長さ(たまねぎ品種に限る。)

Char. 10 Onion varieties only: Pseudostem: length (up to highest green leaf)

形質11 葉しょう部の太さ(たまねぎ品種に限る。)

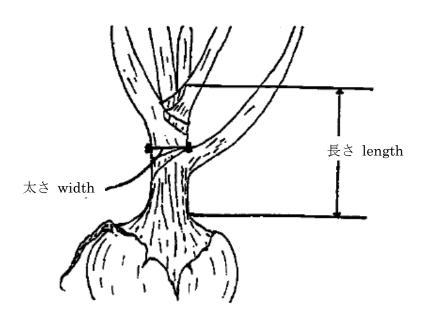
Char. 11 Onion varieties only: Pseudostem: diameter (at mid-point of length)

葉しょう部の長さは、球の上部(首の屈曲点)から、葉しょう部から緑色の葉が出る最も 高い点まで測定する。

葉しょう部の太さは、葉しょう部の中央で測定する。

The length of the pseudo stem should be assessed from the top of the bulb (defined by the point of inflection to the neck) to the point where the highest green leaf emerges from the pseudo stem.

The diameter of the pseudo stem should be assessed in the middle of the pseudo stem.

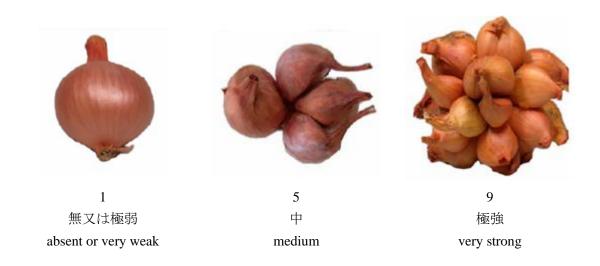


形質 12 種子繁殖性品種の分球性

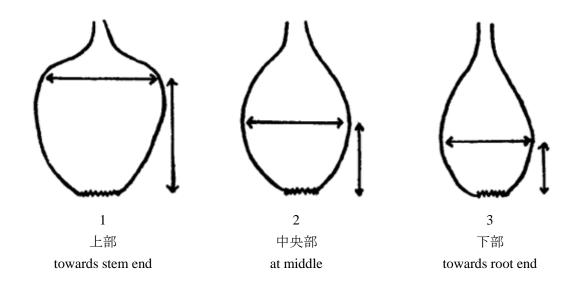
Char.12 <u>Seed-propagated varieties only</u>: Bulb: tendency to split into bulblets (with dry skin around each bulblet)

形質 13 栄養繁殖性品種の分球の強弱 (種子から得られたセット栽培を含む。)

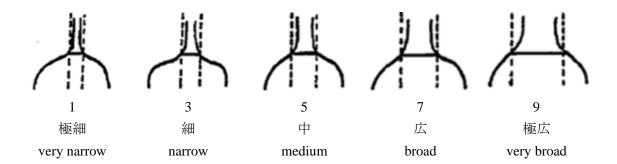
Char. 13 <u>Vegetatively propagated varieties only (including re-planted bulbs harvested from seed-propagated varieties)</u>: Bulb: degree of splitting into bulblets (with dry skin around each bulblet)



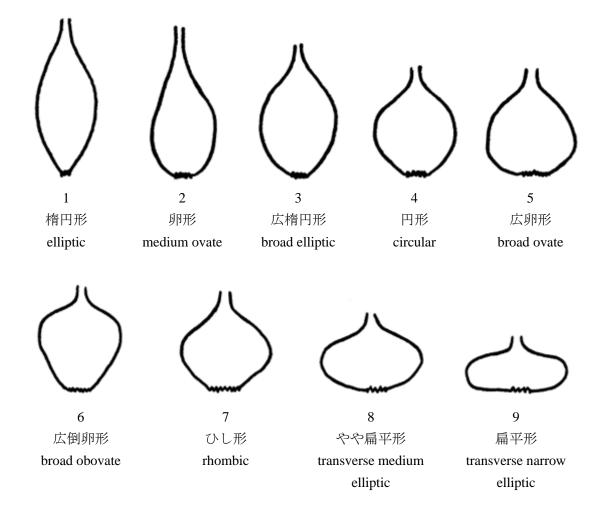
形質 23 球の最大直径の位置 Char.23 Bulb/Bulblet: position of maximum diameter



形質 24 球の首の太さ Char.24 Bulb/Bulblet: width of neck

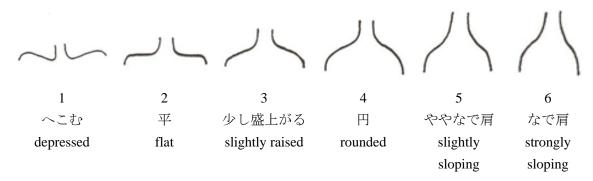


形質 25 球の縦断面の形 Char.25 Bulb/Bulblet: shape (in longitudinal section)



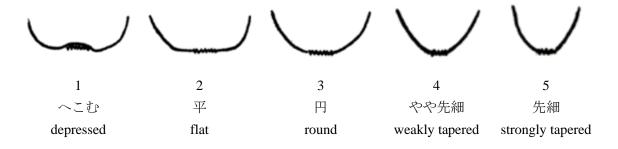
形質 26 球の縦断面上部の形 (たまねぎ品種に限る。)

Char.26 Onion varieties only: Bulb: shape of stem end (in longitudinal section)



形質 27 球の縦断面下部の形

Char.27 Bulb/Bulblet: shape of root end (in longitudinal section)



形質34 球のキログラム当たりの成長点の数

Char.34 Bulb/Bulblet: number of growing point per kg



成長点の数は、完全に乾燥させて貯蔵後、発芽する直前に、中庸な大きさの球の基部から 1/3 の位置を切断して調査する。

「成長点の数/1 球」は球の大きさによって異なるが、「球の重量/1 成長点」は、球の大きさに関係なく品種で一貫するため、1 球の重量とその球の生長点数を測定し、kg 当たりに換算して成長点の数を評価する。

The number of growing points (axes) should be assessed when the bulb/bulblet has completely dried back at the end of storage, just before sprouting commences. Taking median sized bulbs, the bulb or bulblet should be cut in transverse section at ½ of the length from the base. Each axis appears as a point, often greenish in colour surrounded by tissue rings.

For a given variety, the number of growing points per bulb will vary according to the size of the bulb, and the size of the bulb will be influenced by the size of the bulb from which it originated. However, the weight of bulb per growing point is consistent for a given variety, irrespective of the size of the bulb. Thus, the characteristic observes the number of growing points per kg (i.e. the inverse of the weight of bulb per growing point).

形質 37 球の乾物率 Char.37 Bulb/Bulblet: dry matter content

各区から 20 球を採取し、保護葉と根盤から出た根を除去した球を $1\sim5$ mm に細断し、適量の乾燥前重量を計測後、105で 2 時間乾燥させてから 65で 22 時間乾燥した後の重量を計測し、乾物率を算出して評価する。

Dry matter content should be determined according to III-5 for 3 x 20 bulbs (e.g. one sample of 20 bulbs from each plot). From these bulbs the dry skin should be removed as well as the protruding part of the root disk. From these 20 bulbs a bulk sample should be prepared by cutting the bulbs into small pieces of 1-5 mm size. A representative sample should be weighed directly after cutting (we should be aware that the biodegradation of sugars and carbohydrates starts as soon as cells are damaged). The samples should be dried for 2 hours at 105°C and then the temperature should be lowered to 65°C during 22 hours. Lowering of temperature is necessary to avoid caramelisation. The remaining weight should be assessed after 24 hours. From these figures the dry matter content may be calculated.

The dry matter content could also be assessed by refractometer.

形質 45 貯蔵中のほう芽期 Char.45 Time of sprouting during storage

腐敗球や損傷球は除外した上で、隙間のある箱に敷き、通気のよい場所で 2-5℃で貯蔵する。

貯蔵開始前に 30-35 \mathbb{C} で 2 週間キュアリング処理する。なお、Aspergillus niger の増殖を防ぐため 40 \mathbb{C} 以上は避ける。

ほう芽の調査には最低50球が必要で、2~4週間ごとに調査をする。

Care should be taken to exclude damaged bulbs. Storage temperature should be maintained between 2°C and 5°C with good ventilation which can be achieved by storing in stacking, slotted trays.

In climates which have cooler summer temperature, it is advisable to 'cure' bulbs for 2 weeks at a temperature of 30-35°C. Temperatures above 40°C should be avoided to prevent growth of *Aspergillus niger*.

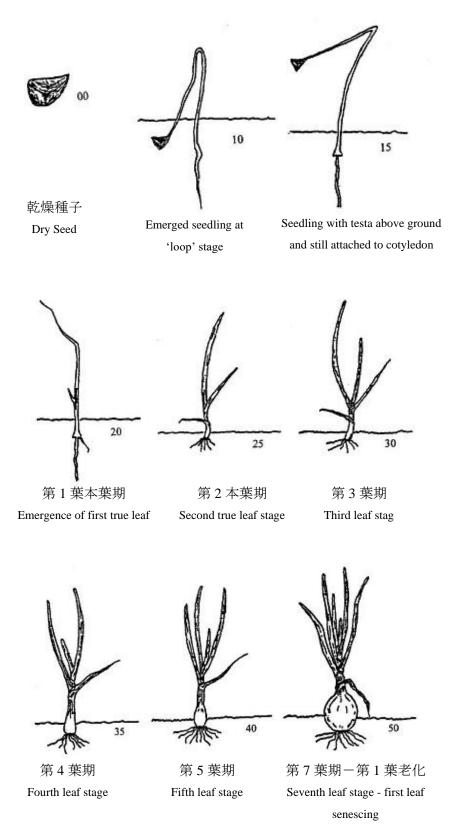
A minimum of 50 bulbs are required to assess sprouting. Assessment should be carried out every 2 to 4 weeks.

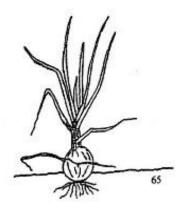
形質 46 雄性不稔性 Char.46 Mare sterility

収穫した球を2年目に植え替えて栽培し、乾燥した天候下で開花させ、花が完全に開いた時に、花粉がやくから放出されているかを株ごとに確認し、花粉が未放出の株を雄性不 稔株として、その発現割合により雄性不稔性を評価する。

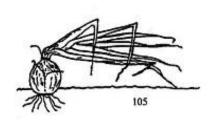
After re-planting of harvested bulbs in the second year, flowers will emerge. In dry weather, when flowers are completely open, male sterility should be assessed by checking if pollen is released from the anthers. This characteristic has to be observed plant by plant; the expression represents the percentage of male sterile plants.

状態区分	State	階級	雄性不稔株の発現割合
無又は極弱	absent or very weak	1	0-10%
弱	weak	2	11-80%
強	strong	3	81-100%

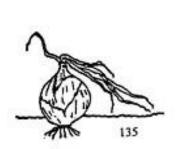




第 10 葉期 Tenth leaf stage; second and third leaves senescing; early bulb development



倒伏期 Beginning of foliage fall-over, weakening of false stem turgidity



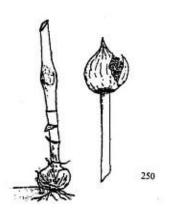
球の収穫期 Bulb at harvestable maturity



貯蔵球の萌芽始
Start of sprouting in store –
swelling of root initials or
emergence of shoot at top of bulb



Sprouted bulbs with emerging leaves



裂ほう期 Splitting of spathe



160

筒花開花期
Opening of florets
(where fertile)